ヲ

（欄外書込 上ニ「二十年」ト記ス）

一月七日午前休息午後勝先生ニ謁ス大雅堂日記ノ小屏風一雙被贈

一月八日初出勤帰途吉原ヲ訪ヒ又橋本ヲ見舞ヲ

一月九日日曜大井邸ニ参賀杉田江新禮

一月十日出勤

一月十一日出勤田村氏病キヲ訪フ

MARUZEN III

一月十二日出勤夕七時伊藤総理大臣之官舎ニ
小集ス来客ハ渡部洪基(邊カ)外山正一等女子奨勵
會発起人等十四五名ナリ新ニ會スルモノ陸
奥宗光末松謙澄福地源一郎岩崎弥之助川田
小一郎渋澤栄一ナリ資本金大万圓ノ原按尚
不足ナリトの(マヽ)會議ニテ十萬圓壹株貳百五
十円ト為シ五ケ年ニ募集スルコトニ定マル
茶菓之馳走アリ十二時過キ帰ル

(欄外書 上ニ「二十年」及「〇」ト記ス)

一月十三日出勤総會ニテ郵電金の決議ス○銀行新年會精養軒ニ向キ夜八時頃帰ル

（欄外書込 上ニ「○レト記ス」）

一月十四日出勤夜會外務省官舎ニアリ夜九時出十一時帰ル

一月十五日出勤

一月十六日曜大鳥圭介ヲ訪ヒ大井邸ニ来ル

廿日同行御依頼ス菊君学事上ニ付依頼セスシ故十リ勝先生ニ謁

一月十七日出勤

仝 十八日 仝

仝 十九日 仝 大雪

仝 廿日 仝 岩渕ヨリ来書福田村田地請も

とし之由也

一月廿一日出勤

一月廿二日 仝 川上左七郎大阪より来ル硝子

會社近来之困難ノ事ヲ話ス

（欄外書込 上ニ「二十年」ト記ス）

一月廿三日日曜朝松方大臣ヲ訪フ新株募集ノ

事内決明日内命有之由約ス○紅葉館ニ神鞭
村田高木ト會ス木綿織場新設ノ相談ナリ○
一昨日宮内省内事課江所有之古鞍指出候様
申来タルニ付使ニ持参指出ス

（欄外書込 上ニ「○」ト記ス）

一月廿五日西京ヨリ御巡幸御發輦孝明天皇二
十年祭ノ為メナリ
一月廿六日銀行惣會ニ於テ日本銀行資本一千
萬圓ノ増加ノ議決義ス
雨三日已来風邪之所弥々寒冒甚敷帰宅即就

床

一月二十七日二月一日迄病床ニ在リ二日三日
追々輕快午後海舟先生ニ謁ス
二月四日本日本快銀行ニ出勤ス
二月五日出勤
二月六日日曜朝三田来リ十九日議按之草稿ヲ
立ツ○熊谷教成来ル
二月七日
二月八日
二月九日

MARUZEN III

二月十日日本銀行新株募集ノコトヲ松方大臣ノ即ニテ内決ス○日本鐵道會社奈良原ヨリ被招紅葉館ニ宴ス

二月十一日紀元節犬井江麗出来四月ヨリ會計向改正ノ事ヲ発ス柴田西京行ノ事等相談ス

二月十六日遠藤敬止日本銀行所有株百五十餘箇あり此度同行資本増加ニ付新株ヨリ生ス利益ヲ宮城英学校ニ寄付センコトヲ進ム

稍承諾ス

MARUZEN III

二月十七日日本銀行株式一千萬圓新募之ヲト
壹株百七十五圓ヲ以發賣セントヲ大藏大
臣ニ謀内大臣兼諸西京滯在ノ伊藤總理大臣
江答謹一郎ヲ使として謀リタルニ同意電報
ス

（欄外書込 上ニ「○」ト記ス）

二月十七日（同日也）お縫真男義男熱海江入
浴ニ出立杉田老人夫婦同伴ス

（欄外書込 上ニ「○」ト記ス）

二月十八日日本銀行ニ於て資本增加之義銀行

総會ニテ可決此夕紅葉館ニ大蔵大臣郷兼ニ
吉井宮内大臣兼ニ渋澤原善三郎等重ナル株
主共十餘名相招き前件内談ス何レも賛成ヲ
得タリ〇お縫一行夕五時小田原江安着之義
富田眞治より申来ル

二月十九日日本銀行株主總會ニて資本金一千
萬圓增加の義決定ス散會後平清ニて小集ス
（欄外書込 上ニ「○」ト記ス）

二月廿日午後松方ヲ橋場の北岡別荘ニ尋又

二月廿一日出勤夜益田孝ヲ紅葉館ニ招キ送別
會ヲ兼ネ松方卿奈良原森岡渋澤等十四名ヲ
招ク

二月廿二日出勤

二月廿三日出勤益田孝ヨリ被招三井別莊ニ夜
宴ス○市原仙臺ニ下ル

二月廿四日出勤精養軒ニテ石原ヨリ被招

二月廿五日出勤

MARUZEN III

二月廿七日出勤田村邦栄死去ニ付夜十二時過
同家江行
二月廿七日日曜松方ヨリ被招橋場地岡ニ會ス
夜ニ入リ帰ル
二月廿八日出勤各地ヨリ出張ノ代理店役員ヲ
富士軒（見脱カ）ニ招キ晩食ス○金五百圓三の村ヨリ
借リ入ル○金三百圓渡邊幸兵衛ニ用立○金
五十圓熱海江遣し渡邊ニ托ス
（欄外書込 上ニ「ニ十年」ト記ス）

MARUZEN III

三月一日出勤昨夜報酬トメ銀行役員ヨリ被招
生村樓ニ會ス

三月二日出勤

三月三日出勤夕星岡茶寮ニ於テ川上左一郎別（七五）
杯ス同人来ル五日大阪ニ帰任

三月四日出勤夕刻田村家ヲ訪フ明日葬送ナリ（至）
○夜村上元磨元亘理ノ人ナリト云フ田村
ヨリ子籠（子籠ノ鮭ナリ）一尺持参之上届ケタル

三月五日出勤○田村家葬送ニ付青山江出張夜
相馬ヨリ被招晩食ス

三月六日朝神鞭同行富士見町之貴地所見物午後大井邸江罷出ス

三月七日新嶋来ル同行森大臣ヲ訪フ又夜同人来ル大槻直信難波并来ル

三月八日伊達寧祐学資金百貳拾円ブルヘッキ氏江渡ス本日発の米郵便ニテ指立ル筈相約ス○出勤帰途大蔵省ニ立より郷次官ニ出會ス

三月九日出勤朝ヨリ風雨昨日彦ヲ熱海江向ケ

MARUZEN III

出立為致今日先地着ナラン

三月十日晴出勤午後村田一郎熊吞某同行関口水道町地所一見ス餘リ不好ノ地ト認メ夜越後三島億次郎来訪

三月十一日出勤午後森大臣ヲ訪ヒ

三月十二日出勤午後森大臣ヲ訪フ

三月十三日日曜松平正直大井江参卿ニ付取扱ニ参上ス御縫熱海より帰ル

MARUZEN III

五月廿六日紙幣百貳拾弗伊達基寧より受取桑港為替米金九十弗藤井三郎宛伊達寧祐ニ送ル

（欄外書込　上ニ「二十年」ト記ス）

六月廿八日出勤帰途松平正直ヲ七七銀行ニ訪ヒ宮城英学校之事ヲ相談ス

MARUZEN

八月二日お縫真男義男箱根避暑ニ出立神府津（國カ）
迄鐵道出来ニ付一日ニ而山ニ着ス七時安着
之よしナリ○暑キハ十四度
（欄外書込 上ニ「○」ト記ス）
八月三日夕遠藤敬止来ル
八月十二日義男病キのよし箱根ヨリ電報難波
出張相談ス
八月十三日赤十字社病院ニ手術アリ右取仕舞
午後出立之所少々快方之電報ニ付明朝出立

MARUZEN III

之事ニ取極メ金亦同行ノ手配ナリ
伊藤総理大臣ヨリ至急相談の用事有之故官
邸ニ招カル三時永田町ニ行キ出會ス近頃地
岡ヨリ銀行之内況兼知就テハ今ヨリ一層堪
忍継續可然と懇諭ナリ尤松方江も今朝内話
致との事也
松方ヨリ急ニ可参と書状来ル明日箱根出立
ノ内情申述断ル

（欄外書込 上ニ「○」ト記ス）

MARUZEN III

八月十四日難波同行出立午後三時箱根江着直
ニ義男訪祭投藥手當ス
八月十五日箱根滞在義男快方之容体ナリ
八月十六日難波同道箱根出立五時之汽車ニ而
東京夜八時過安着ス
八月十七日義男漸々快方之報道来ル漸ク安心
八月廿日銀行總會
八月廿二日松方ニ出會ス余ヲ説諭スルニ銀行
ニ継續スヘキヲ以ス功言可笑可憐ナリ

（欄外書込 上ニ「○」ト記ス）

八月廿四日今日休暇ス明朝箱根ニ遊ハントス

MARUZEN

二十年十一月廿日日曜秋晴朝麻布三ノ橋税所
篤氏ヲ訪フ氏ハ新設ノ奈良縣知事ニ被任因
テ祝賀ノ為メ見舞タル也當月末ニ就任ト云
フ出立前一夕離杯ヲ酌シコトヲ約シテ去ル
○三田佶来ル兌換券條例改正ノ筆者也午後
同道星岡茶寮ニ會ス三野村田口卯吉ト對酌
ス○午前北岡来ル毎替ノコトニ付内話アリ
又安田善次郎来ル秋風録ヲかし遣し松方よ
り一見セヨト内諭ヲ受タル故所望ト云フ因
テ祕し置きタレトモかし遣レス

十一月廿一日秋晴新座敷屋根瓦全ク終ル出勤

○北岡出勤曰ク昨日松大盡ヲ訪ヒ専(直ニ)意見ヲ聞タル所最早あやまちに心付しナリト○

田中市兵衛来ル奈良縣國庫出納所ノ引受所望セリ

(欄外書込 上ニ「二十年」ト記ス)

十一月廿二日秋晴出勤

十一月廿三日大祭日朝税所篤ヲ尋ヌ奈良國庫金出納所ヲ第六十八銀行に継續ノコトヲ内話ス地方税ハ第三銀行ニ依托スト云フ

MARUZEN III

夜神鞭来ル兌換発行条例ヲ内談ス

松方大蔵大臣ヨリ左ノ品々被贈

太刀壹腰

東照公画像　天海和尚賛懸物（掛カ）壹箱

大雅堂書画貳幅對壹箱

十一月廿四日出勤朝松方ヲ訪ヒ贈物ノ謝詞ヲ陳ス

十一月廿五日出勤大蔵省ニ出大臣退省ニ付不會

十一月廿六日出勤兌換銀券條例日本銀行條例

改正按ヲ草シ大蔵大臣ニ提出ス

十一月廿七日日曜在宿市原江梅吠沼津竹内江

千鯛十圓注文出ス

十一月廿八日出勤大蔵省ニ出テ一昨日提出之

改正按ノ模様ヲ聞ク○廣澤安任急ニ帰縣ノ

旨来書アリ

十一月廿九日出勤

十一月三十日出勤

十二月一日出勤

十二月二日出勤朝大蔵大臣永田町ニ訪ヒ来ル

六日橋場ニ而對酌ヲ約ス

十二月三日出勤仙臺造士義會例會日出席

十二月四日日曜ス、拂朝勝先生ニ東照宮画像

天海和尚賛幅物持参預ケ置ク〇午後森大臣

ヲ訪フ

十二月五日出勤

十二月六日出勤〇今朝島津久光薨去ノ由傳聞

セリ〇松方伯ト今日橋場ニ會スル約アリ島

津ノ凶報ニ付延引○松倉帰京ノ由申来ル○
協平ヨリ名取川埋木ノ茶盆被贈
十二月七日出勤大倉喜八郎ニ被招晩食ス園田
孝吉會合ス
十二月八日出勤國庫出納所改正見込ヲ大蔵省
ニ内議ス○立花種恭来訪大井ノ内政ニ付内
談アリ松倉来ル仙臺ヨリ帰京ニ付来ル
十二月九日出勤○午後精養軒ニ小名木川木布
會社集會アリ村田一郎社長ニ被撰○夕刻松
方大蔵大臣官舎ニ矢倉三ノ村同行閑話ス尓

来凝験の為替一条芽氷解アリシカと豫想セ
スに更ニ眞味ヲ悟ラズ矢張旧事ニ迷目ノ様
ナリ事ヲ解セサル程難義ナルモノアラズ原
大ハ朋友間ノ私事迄も密告シ以テ憂ヲ更ケ
ラルヨウ也

十二月十日出勤○芝幼稚園ノ集會アリ

十二月十一日日曜風氣故在宿お縫昨日ヨリ平
臥風熱ナリ

十二月十二日出勤平清ニ而原大郎より被招晩

食ス

十二月十三日出勤朝大蔵省ニテ松尾郷ニ出會

○夜横尾東作伊達基寧来ル同人弟寧祐ノコ

トヲ談ズ

十二月十四日朝ヨリ風邪熱度ノ爲メ氣分不勝

故出勤大疲シ床中ニ入リタルハ午時ナリ難

波ヲ招テ診察ヲ乞ヒタルニ熱度三十九度餘

ト云フからしの御湯発汗剤ヲ用ヒタルニ流

MARUZEN

汗如涌衣ヲ換タルコト数十回ナリ

十二月十五日朝熱度三十八度夕刻三十七度ニ
下ル心氣漸ク安シ

十二月十六日

十二月十七日昨日ヨリ漸次快復

十二月十八日朝吉原ヨリ急便ニ同氏夜来急病
危篤ノ旨申来ル余未タ外出不叶故与倉ト濱
田市助ニ人ヲ遣し呼よせ名代として遣し若
し御危篤ナラハ速ニ大蔵大臣ニ内報ノ上勲
位昇級ヲ計ルヘシ申送ル与倉午後来リ曰ク

MARUZEN

午前九時絶命ナレトモ先ツ大蔵大臣ニ告ケ
前条ノ周旋中ナレハ其中発表見合スヘシト
依テ明~~日~~十九日日本銀行ニ於テ重役監事集會
ヲ開ント夫々証書状出シス

（欄外書込　上ニ○ヲ記ス）

十二月十九日病後初メテ出勤先ツ吉原病死ニ
付葬儀費用ハ銀行にて支弁ノコトヲ決議藥
師濱田金原信近三名并ニ消防夫五名ヲ日々
吉原宅ニ指出事ニ決ス○大蔵省ニ出頭卿ニ
右之趣キ申入レ又吉原宅ニ悔旁々見舞四時

頃帰ル

病キ弥々快復健胃剤有之四日間可用ト難波

申置ク

十二月二十日出勤

十二月二十一日出勤朝吉原宅ヲ見舞葬式等事

ヲ聞合又大蔵省江出頭ス○金聲学校江金貳

拾圓寄付ス

十二月廿二日雨吉原葬儀ニ付銀行休業五時過

葬式済帰宅ス○夜神鞭村田来ル冬服背廣一

組森村組ニ而新調出来ル

（欄外書込 上ニ「○ト誤ス」）

十二月二十三日出勤村田来リ昨夜神鞭星ヲ尋
一条ノ談ニ及ヒ大ニハリ込ミ居ル模様ト云
々内話ス○夜松方大臣宅ニ被招晩食ス来人
ハ大蔵省次官より局長課長十四五名ナリ大
阪遠藤謹助出立ノ別杯ト被察也○又松方之
内話ニ吉原病死ニ付後任選擇（擇カ）ハ尤困難ナリ
尓来足下盡力致居ル所ナレハ今後も足下負
擔呉候方可然もし同志ナラサル総裁ヲ入ル

、時ハ足下ヲ迷惑ナラン謙遜遠慮ナク見込
ミ吐露セヨトノ事ナレハ是ニ答ヘ銀行之事
業年々増加中ニ微力ノ堪ヒヘキ所ニアラズ
総裁之任選尤希望スル所ナリ之レ迄ハ不勤
ノ総裁ナリトモ其名目アルカ故輔佐ノ任ト
メ盡カセスモ自分一人ニテ引受クルハ甚無
覚束ナ
覚速次第又好ミ申さず又内外ノ事一人ニテ
引受クヘキニアラズ宜御勘考ヲ願フト申述
ブ

（欄外書込　後任選擢ノ上及ビ見込ミ吐露ノ上ニ「○」ト記ス）

十二月二十四日出勤午後一時より大井江出頭
鈴木佐和大規文来會事務納メ也帰途昨日松
方内話ノ事ニ付鈴木ト寛話意見ヲ聚又西三
日中来會ヲ約セリ
お縫又候熱氣就床温度三十七度七分也

十二月廿五日出勤

十二月廿六日出勤夜銀行ヨリ急便ニテ臨時費
御ノ為メ巡査来ルト云フ壮士退去ノ所分也

十二月廿七日出勤

MARUZEN III

十二月廿八日出勤大蔵大臣并伊藤大臣ヲ尋伊
藤不在リ已代治ニ出會ニ期ヲ依頼ス（子爵カ）
十二月廿九日出勤吉原遺子ニ金壹萬圓贈ル
十二月三十日出勤一日ヨリ村田同行近縣旅行
ヲ約ス新聞紙ニ廣告ス
十二月三十一日朝松方大臣私邸ヲ訪ヒ日本銀
行ノ情況左ニ陳述
一兌換券ノ発行高（五千四百万円）ニ對ス
ル準備ハ漸ク大割ノ進メ留ムルより外ナ

シ

一第二回株金ノ拂込ミハ先ツ可ナル情況也

一明年株主總會前ニ見換券発行規定ノ制ヲ定メラルヽ事

一銀行會社ノ私印ヲ可用トノ布告ヲ至急改正アリタキコト

右終リ歳末ノ禮ヲ述ヘ帰ル

出勤カケ鈴木大亮ニ立ヨリ大槻直信身上ノ内話ヲ為ス大槻夜来リ鈴木ヨリ内話ヨリ本人ニ於テ探偵等ノ事ニ関スルヲ好ムニアラ

MARUZEN

ズ不得止ヨリ一時盡力スルノミト依テ之レヨリ安田ニ行キ心中ヲ吐露シ然ル上ニ進退可決ト談ズ顧ニ本人ノ擧動甚若輩ナリ一層注意セサレハ或ハ身ヲ誤ルナラン○遠戒秀行来ル吉原ニ贈金ノ禮ナリ

本年ノ日記擱筆ス明日雑煮ヲ食シ妻児ト祝杯ヲ擧クル後箱根ニ旅行セント村田ト申合ス

（欄外書込上ニ「○」ト記ス）

MARUZEN

明治二十一年、戊子
一月一日快晴所労ニ付朝拜不参届ヲ式部職ニ
出ス
朝妻児ト雑煮ヲ食シ十時半ノ汽車ニテ旅行
ヲ初ム同行村田一郎也
鎌倉海濱院ニ至リ一泊ス本院ハ昨年之新設
ニ係ル海水浴場也院内都而洋風ニテ三十餘
ノ寢室食室休足所浴室等ノ設ケアリ夏時ハ
可ナルヤ冬期ノ遊場ニハ不適當リ風アリ沙
塵撲窓室内ノ暖爐不充分故甚不快ヲ覚フ

MARUZEN

伊賀陽太郎ニ會ス同人ハ同所ヨリ數十町東ニ材木座村ニ小地ヲ求メ家作ヲ設ケ家族海水浴ノ場ヲ設ケタリト又近鄰ニ地所アリ一見可然と云フ

（欄外書込　上ニ「○」ト記ス）

廿一月二日海濱院滞留朝村田ト同行伊賀別莊ヲ尋ル昨日ノ地所三ケ所一見ス何も東北ニ山ヲ負ヒ別莊ニ可ナル土地ナレハ其價ヲ聞キ合セ方ヲ托ス去ル十二時出立藤澤ヨリ汽車ニ乘リ國府津ヨリ馬車ニテ箱根塔ノ澤ニ至ル

宮ノ下ニ一泊セント塔ノ澤出立ス山風強ク
車行不進又山上ヨリ沙石飛散路程危険ナレ
ハ途中ヨリ引キ戻リ塔ノ澤玉ノ湯ニ一泊ス

一
六月三日塔澤出立熱海ニ赴キ阪口ヤニ泊ス初
メ鈴木ニ泊セントスルニ来客多ク室ナシ

一
六月四日滞留昨夜ヨリ神鞭来リ囲碁寛話終日
無閑暇

一
六月五日朝七時半熱海出立二人挽人力車ヘ壹
人前七十弐ノ國府津ニ十二時過着ス熱海ヨ
リ國府津迄車行五時間ナリ一人挽ナレハ文

時間ニテ可達尤途中立場晝食ノ消費時間一
時間ト見積ル三時間餘汽車ヲ待テ三時貳十
分同所出車六時半頃帰京ス

一
廿
月六日出勤旧冬已来ノ計算ヲ整理ス

一
A
七日朝伊藤総理大臣ヲ訪ヒ面謁ノ上去月
二十三日大蔵大臣ノ内話ノ要領ヲ演ヘ又懸
按ヲ併テ陳述ノ上意見ヲ乞フ懸按ノ如ク當
分引更候方トノコトニ付尓餘銀行ノ近況ニ
及ブ又松方ノ擧動ニ充分信ヲ置カサル如キ
口氣言外ニ察セラル○松方大臣ヲ訪フ不在

大蔵省ニ出頭郷次官ニ出會ス夕刻森文部大臣ヲ訪ヒ身上ノ意見ヲ内話ス同意ナリ勝先生讓堂公ニ年賀帰ル

松方大蔵大臣ニ呈書左ニ

一書拝啓仕候小生義一昨五日夕帰京昨日ハ終日銀行の事ニ取懸り候故今朝永田町江参殿候所御出車後不拝謁候兼て御配慮被成下候第二回株金拂込も満俩(了カ)と相成又昨年利益も可也此両条ハ一ト先ツ御安易奉願候巨細ハ日計表ニて御一覧賜り度候扨去月廿三日

MARUZEN

夜小生身上に関し縷々御懇談ヲ蒙り難有奉
存候尓来反覆熟考仕候上左ニ御答申上候
故吉原総裁在職中ハ外國行不在又ハ多病勝
故小生専断にも事務之過半ハ所弁問ニ合来
り候是等ハ素ヨリ閣下之御指揮ニより候事
ニ候得共格別不都合不相釀ハ小生之僥倖ト
奉感謝候今後とても右同様之事ニ候ハヽ不
不行届御懇諭甘受可仕候得共銀行前途之事
業推測候に國庫金出納兌換券発行事務之如
キハ財政上重要之件々にて小生輩容易ニ御

愛可致事ニ無之候乍去さし當り行員折合之
如何迄も深ク御懸念被遊候場合ニ付先ツ此
際丈奉命可仕候就而ハ併テ御南置相願候一
事有之餘事ニ無之早晩総裁御治定可相成又
必要之時期不遠と拝察致し候間総裁御選定
之上事務引續候ハヽ小生義御放免被下候樣
仕度此義敢て御南濟相願候書餘ハ一両日中
拝謁言上可仕候得共餘リ延引相成候故一應
御愛如此申上候也謹言

富田鐵之助

一月七日

大蔵大臣松方伯ニ

尚々本文之通り暫時御要仕候所小生ニハ文書局長兼務候得ハ兼務にて諸証券上一名之記名如何可有之哉去りとて定款にて極り居候兼務故他之重役にて相兼候も如何か其邊之取計方不日拝謁之上相窺度心得御座候序ニ何一寸申上置候也又拝

（欄外書込　一書拝啓ノ上ニ「○」ト記ス）

一月八日日曜朝西村田幸島江年賀夫ヨリ大井江参邸年賀又鈴木大亮来會又昼夜後帰宅入

昨日さし出タル返書松方ヨリ来ル来書義諾
尚巨細ハ面談スヘシ云々又兌換券條例改正
按ヲ回サル
一月九日出勤大蔵省江出頭昨日回付之兌換條
例改正按之意見ヲ松方大臣ニ演ス○多羅尾
林新次郎来リ麻布水道記文ノ誤謬アリテ其
改正所分之相談アリ引戻し○村田一郎来
ル兼て申合タル一条二ヶ月前之株主ニアラ
サレハ発言之権理ナク今度ハ見合タルト云
フ

MARUZEN

一月十日出勤○夜麻布区長太田卓三ヲ訪フ区内水道設置ノ當時右記念碑来ル然ルニ右記文實ヲ誤リタル所アリトテ前区長前田利充氏竊ニ論議スル所アリトテ其所分カヲ多羅尾林氏等ヨリ被托依テ太田ヲ説キ記文ヲ改ムルコトト存ス事平易ヲ告ク當時区役所ニ建ル所ノ記念碑先ツ余ノ頼ル所ト存スタ羅尾ニ立より石ノ取除キヲ托ス

一月十一日出勤○前田利充来ル麻布水道記ノ事ヲ読ズ

一月十二日出勤少々風気早ク帰ル○熱海神鞭
江書状出ス

一月十三日出勤損益勘定配當金田議ヲ為ス割
賦一割貳歩ト極ム○行員相招キ新年算會大
矢木も招當日大棒例萬千ナリ

一月十四日出勤午後造士義會發會ナリ事務所
ニ出ル

一月十五日日曜午後奈良原ヲ訪不在吉原ヲ訪
フ銀行ヨリ寄付壹萬円儲蓄ノコトニ付内話
アリ○鄉ヲ訪ヒタ刻帰ル

一月十六日出勤

一月十七日仝

一月十八日仝　加藤銀行局長歐州ヨリ返ル新橋停車所ニ向フ○夜松倉来ル

一月十九日出勤訪加藤濟不逢夜太田卓三前田利充ヲ訪フ森布区内引水記建碑仲裁一条ナリ議粗成ル

一月廿日出勤

一月廿一日出勤川上左七郎大阪ヨリ来鹿児島之老父大病ニ付看護ノ為メ帰縣ヲ乞フ石原

代理として大阪江さし立ルコトニ極ム○夜
島津家ヨリ馳走として紅葉館ニ被招同家ニ
招松方大臣奈良原茅五銀行之頭取等来ル
一月廿二日日曜朝松浦山東来ル午後勝先生ヲ
訪ル夜鈴木大亮ヲ訪フ
一月廿三日出勤
一月廿四日出勤
一月廿五日仝
一月廿六日仝　夜鈴木大亮来ル大槻直信安田
銀行ニ縁事ノコトニ付内談ニ来ル同氏近況

MARUZEN

判定ス難ス安田ト直談取極メサスル方可然
ト談合フ○明廿七日加藤濟帰京ニ付富士見
軒ニ招待シ又松方大臣初大蔵省廿三名相招
キタル所復(服)務規律アレハ何モモ参會セズ申
事故夫々江断リ状さし出延會ノコトニ極ム
即吟左ニ
風吹ハ下界ニ落る恐ろしさ心して行ゞ雲
の上人
小野清妻女病死ノ報知
(欄外書込 即吟ノ上ニ「○」ト記ス)

一月廿七日朝松方大臣ヲ訪ヒ本日招待ノ義大
蔵省中議論有之由ナレハ休會ノコトヲ申述
フ○吉原五十日祭ニ金貳百円ヲ贈ルコト○
昨年下半季理事實ヲ金貳千貳百円ニ定ムル
コトヲ申述フ何レモ異議ナシ○且本日休會
ノ事ハ官吏復務規律之響キアリトノ事也小
吏共ハ眼力亦小ナリ法律ノ精神ヲ不問外部
ニ汲々タリ諸般ノ事想ヒ視ル可シ嗚呼嗚呼
小野清江梅ニ訪フ○出勤

一月廿八日出勤帰途奈良原矢田部吉原森ヲ訪フ

一月廿九日日曜朝北岡文矣衛来リ楠正成書幅大石内蔵丞添書付一箱被贈朝十時三十分汽車ニ而鎌倉ニ出立ス村田同行材木座村地所見分ナリ十一時海邊院(濱カ)ニ着畫食材木座村邊見物伊賀陽太郎方相尋又々地所ヲ見明日世話人直談之事ニ取極メ海邊院ニ来リ泊ス相馬来リ囲碁十一時過ヲ湯入臥床

一月三十日大祭日朝食後坂下村邊散歩之上海

邊院支拂相立伊賀ヲ訪ヒ世話人両人田中某
江第一ニ井戸ヲ堀ル有無検査之上取極メ
度ヲ約ス伊賀大河内同行鎌倉八幡宮司筥崎
氏ヲ訪ヒ同人所持之古器類一見午後馳走ニ
ナリ同所二時出立戸塚四時ノ汽車ニ而六時
帰宅ス
一月三十一日出勤

二月一日出勤朝七十七銀行ニ到リ中嶋遠藤ニ
逢何レも両三日前出京

二月二日出勤

二月三日出勤夕東華学校維持相談ノ為メ今度
出京の遠藤敬止佐藤三之助并ニ松倉中嶋從
成鈴木大亮来會ス洋食ヲ出ス

二月四日松方大臣ヨリ被招候故朝官邸ヲ訪フ
余総裁ニ園田孝吉副総裁ニ被命ノ相命アリ
余即答セズ帰ル○出勤○造士義會例日ニ付
出席○一昨夜ヨリ真男風邪平臥ス今日餘程

MARUZEN

快氣ナリ

（欄外書込　上ニ「○」ト記ス）

二月五日日曜朝勝先生ヲ訪ヒ昨日松方ヨリ内諭ヲ得タル事ニ付愚存左ニ申述先生意見ヲ仰ク

抑総裁ノ任ヲ負擔スルコト頗ル困難ノ形勢ナレハ毛頭望ム所ニアラス如何ンセバ松方之方都合ヨク断リ出可ヤ断サレハ命ヲ蒙ル（ラ脱）ヨリ他ナス其結果決而美ヲ見ル能ハズ時勢

ノ然ラシムル所ナリト先生曰ク今日ニ断ル
モ一時奉命スルモ五十歩百歩也命ニ逆ハズ
唯々命ニ任セ置クニ過カズ松方江此書状持
参セヨトテ一封ヲ認メラル其文ニ
雪故寒氣相増候所益御勇祥被成御座重々
奉賀候扨富田氏参御説諭之事も拝承兼當人
ハ進退ニ困却之様子小生申聞候ハ小事ニ
級々致候ハ當今之利ニ無之世上一体何と
無く行詰候ハ財勢之変化ニ生一層注意ヲ
致候形勢哉と考候間私念ヲ権勢に任御奉

公致候事可然哉と申談候所當人至極と考
候樣ニ有之候此段いらぬ事なから尊公迄
内々申上置候引も出つも唯々五十歩百歩
之場合何れ一身之進退ハ自然ニ仕候事也
と存候豈銀行而已然らむ哉と愚考仕候也

二月六日　勝安房

松方正義樣

右ノ次第ニ付拝命ノ事ニ決定夜三野村地岡
と星岡ニ會シ前条申述副総裁之事杯内諾帰

MARUZEN

宅ス

一吉原五十日祭ニ付被招来會者高嵜正風三好退藏金井之恭三野村利左倉地岡森村茅也洋食之馳走三時過キ仕舞ケリ

昨日ヨリ大雪夜ニ入リ晴ル

（欄外書込　上ニ「○」ト記ス尚雪故寒気ノ上ニ「○」ト記ス）

二月六日朝松方大臣ヲ尋又私宅ニ行キ不在ナリ夫ヨリ森大臣ヲ尋候所余カ事内閣ノ議ニカヽリ伊藤尤盡力ニテ余ヲ推擧シ已ニ内閣

決議ナリシ模様ナリ夫レヨリ出勤午後大蔵省ニテ松方大臣ニ出會御更決意ノ次第ヲ申陳ブ又勝先生ノ書狀さし出タリ一見之上當人曰ク余ニ風諫(諷カ)ノ文アリト○今夕村田小林ヨリ被招所前件奔走故断リノ上不参帰宅又

二月七日出勤明日小集ノ支度ノ為メ早目ニ帰ル國庫金出納所意見書認可相来リタリ

大井ヨリ珍蔵中ノ軸物拝借ス明日ノ来客用也

二月八日出勤午後新座敷ニおゐて小集来客廣
澤安任三野村利助北岡文兵衛古筆了悦難波
一十り北岡ヨリ蘆雪西行之書幅被贈又大井
ヨリ左記ノ御藏幅拝借来客一覧ス何もモ賛
賞其中梁階(マヽ)筆普化圖ハ天下無比ノ名物ト賛
賞ス

一芳野花樹會懐紙　三卷
一宗梁指筆普化　一幅
一明沈度筆墨君堂記　仝
一卒翁画　布袋
　　絶賛

MARUZEN

一 明治筆春浦賛達摩　仝

計五品

二月九日出勤昨日拜借之御品大井江返上○神鞭来ル三野村ト内談友人邸宅買取ヲ依頼ス

三野村義諾ト云フ○夜相馬来ル○華族戸籍課ヨリ戸籍生年等取調指出様申来ル直ニ調郵便にて出ス○橋本来リお縫診察ス

二月十日出勤夕第十五銀行ヨリ晩餐ニ被招出張ス三条公并岩倉氏餘ノ華族銀行者十餘名

来會ス

二月十一日土曜紀元節大祭參賀ハ所労ニ付御
屆不參上

二月十二日日曜岩渕出京ス

二月十三日出勤鄉次官ト國庫金代理店ノコト
ヲ談ス川崎久傳米申立不條理ノ事ヲ申談ズ

二月十四日出勤

二月十五日出勤○三井一家ヲ濱町常盤やニ招

き宴會ス

二月十六日出勤

二月十七日出勤昨日ヨリ國庫出納所改正ニ付出京ノ銀行者呼とり大意直談ス又照會書追々郵送ヲ初ム〇午後来客北岡三野村市河三兼古筆了悦来ル岩渕出京故ナリ大井ヨリ御藏幅拝借拝見序致候事〇明日慰會ニ付大藏省江一寸出頭其旨郷江申談ス

二月十八日出勤銀行第十一回株主總會日ナリ

MARUZEN

無滯相濟例ニより小数常盤やニ酒宴ス帰途
松方大臣三田邸ヲ訪ヒ総會完結ノ報告ヲ為
スタリ

（欄外書込 上ニ「○」ト記ス）

二月十九日日曜造士義會總會三十間堀ニ開ク
過ル十七日来客大井ヨリ拝借ノ幅モノ
一定家慈鎮家隆之筆
一宋僧牧溪筆朝陽東望元愷賛
一因陀羅筆寒山拾得　對幅
一寧元菴書

一宋釋圓悟自賛像

二月廿日出勤行員江賞与金渡し支際費貳千圓
受取

三井銀行招キニより向島八百松ニ被招夜ニ
入り帰ル

二月廿一日出勤○松隣兄太田方ニ一泊○藤井
ヨリ伊達寧祐帰朝旨申来ル○夜左之通り申
来

御用候条明廿二日午前十時禮禮(服カ)着用参闕

可有之候也

内閣書記官

明治二十一年二月廿一日

日本銀行副総裁 富田鐵之助殿

二月廿二日午前十時禮服ニテ内閣江出頭左ノ
辞令被相渡

日本銀行副総裁富田鐵之助

日本銀行総裁被

仰付

MARUZEN III

明治廿一年二月廿一日　内閣

右御更致参内御禮申上大蔵省江出頭ノ上一次
官ニ吹聽又出納局江同様直ニ銀行ニ出勤帰
途又大蔵省ニおゐて大臣ニ吹聽理事等之事
ヲ申述来ル廿四日朝官邸ニ出頭ヲ約ス

（欄外書込　上ニ「○」ト記ス）

二月廿三日朝伊藤総理大臣松方大臣森大臣大
隈大臣ニ巡勤又加藤濟ヲ訪出勤午後帰ル来

客晩餐三島億次郎関野善次郎岡橋治助弘世
助三郎遠藤敬止矢倉守人

二月廿四日出勤夕刻ヨリ行員課長已上ヲ其三
縁亭ニ晩酌ス

二月廿五日出勤中井弘ニ立ヨリ銀行之景況ヲ
談ズ夜三ノ野村来リ晩食ス

大井ヨリ昇進之御使者并ニ鮮魚ヲ賜ル

二月廿七日出勤又花房義質實毋葬式ニ本所法

恩寺江行ク○夕杉田一家町内知人ヲ招キ晩食ヲ出シス

二月廿八日出勤午後紅葉館ニ而昇等披露ノ為メ東京銀行者其外ヲ招キ祝宴ヲ開ク松方大臣臨席

二月廿九日出勤御同様祝宴ヲ開ク

MARUZEN

三月一日出勤朝松方大臣ヲ訪ヒ一昨日臨席ヲ
謝ス
三月二日雨出勤金時計壹個松浦ヨリ買入ル九
十五圓也○祝儀モライの所江島の子餅夫々
遣ス
三月三日快晴出勤帰途郷次官島田三郎キヨソ
子大隈大臣等ヲ訪フ
三月四日出勤○松方江島の子餅兼ニ物品贈ル
○阿淡縮(波カ)七十反買入ス冨金七十円山田樂江
托ス

三月五日出勤

三月六日出勤

三月七日出勤朝松方大臣官舍ヲ訪ヒ兌換銀行
券條例改正草稿ニ付意見申述ブ

三月八日出勤

三月九日出勤鈴木大亮佐和正松倉恂中島信行
柴田隆大槻文彦相招き晩食ス

三月十日出勤午後勝先生ニ謁ス

三月十一日日曜微暖春晴真男義男を携へ岩渕

MARUZEN III

兄ト亀井戸天神ヨリ臥龍梅ヲ訪フ花未タ五分ニ至ラズ三四日後ナラバ観梅適宜ナラン八百松樓ニ晝食浅草公園ニ出日没前帰ル

日曼帝崩御ノ旨本日新聞ニ傳フ九十一年ナ一月ナリト云フ、ビスマーク公亦高齢ナリ

從是歐州ノ政況一変セン一盛一衰天地自然英雄國ヲ御スルノモノ皆同一轍也世云彼ハ專制ナリ之レハ君民共和ナリト皆大同小異ナルノミ未タ戰國記ノ範囲ヲ脱セサルモノナリ天時未タ眞正ノ文化ヲ敷サルノミ嗚呼

三月十二日出勤

三月十三日出勤朝加藤斌氏来ル正金銀行原と親和ヲ望ム厚メ一宴を開カンコトヲ計ル余ニ臨席ヲ望ム云々同氏ノ談ナリ余對曰ク原と毛重ノ融意アルニ非ラズ貴説甚タ不得其意ナリト然ニ銀行内近来之紛云之内況ヲ説キ出ス余知ラス又如ク答フ之レ或ハ原ノ使ナルヤも難計又中村道太等ト同志ナリト云バ暗ニ余心中ヲ探リ同志ニ引入レンノ計リ両者ノ一ナラン彼レ等ト共ニ計ル可キニアラサ

MARUZEN III

レハ何レニモ淡薄ニ答ヘラル

三月十四日出勤○勝夫人大井辺御部方来ル（座脱カ）

村田一郎来ル鎌倉材木座村地所買入レ終リタル由報告ス代價諸入費共五百十四圓餘ナリ右ハ當分村田名前ニ存ス置ク積リナリ

（欄外書込 上ニ「○」ト記ス）

三月十五日出勤

三月十六日出勤

三月十七日出勤

三月十八日日曜大槻修三文彦来ル

三月十九日出勤午後松平正直ヲ星岡ニ招ク鈴木佐和相共ニマヲク

三月二十日祭日○大井邸ニ松浦立花両君来ル

古筆谷村三田陪席ス茶器一覧ニ具ス

三月二十一日出勤

三月二十二日出勤午後横濱ニ出張女学校教師等七名英國ヨリ来ル相携テ旧雲州邸ニ安着

ス夜十二時帰ル

三月二十三日出勤

MARUZEN

三月廿四日

三月廿五日

三月廿六日

三月廿七日出勤午後原善兼木勉高木三郎を招キ生糸荷厚替之事ヲ内話洋食ヲ出シス

三月廿八日出勤

三月廿九日出勤朝松隣兄仙臺ニ帰ル

三月三十日出勤夕刻深川立花種恭氏ニ被招大井ノ内話ナリ結局主公ノ不智ト生母之不行届トヨリ生ツル事故ナリ漸次整理ノ策ヲ下

シヘシ事変急ナレハ所置シ易キモ婦女ノ不
合尤モ困難ノモノナリ

三月三十一日

四月一日日曜

四月二日出勤午後橋場北岡にて松方大臣ニ會
入

四月三日大祭夜松倉来ル

四月四日出勤

四月五日出勤松方大臣郷次官松尾医善を携ヒ

MARUZEN

銀行ニ来ラル而シ大蔵省ニおゐて實施シ来
リタル朝鮮砂金買入方廃止ニ付爾来日本銀
行ニおゐて取行フヨウニ被談又海外為替ハ
従前之如ク正金銀行ニ被相托云々

四月七日朝井上顧問官ヲ訪ヒ新島学校ノコト
ヲ内話ス出勤
昨日ヨリ義男水痘ナリ至極順調終日進ヒ居
ル熱氣更ニなし

（欄外書込 上ニ「O」レト記ス）

四月八日日曜銀員一同地岡ニ行

四月九日出勤

四月十日仝

四月十一日出勤兌換券條例改正按ニ付意見書

松方大臣ニ出ス

午後松方大臣ニ被誘地岡ニ観花墨堤櫻花満

開

四月十二日上野景範病死ニ付悔ニ行ク〇午後

横濱原善小野光景来ル倉庫会社創立之内談

MARUZEN

十り神鞭来り参座ス

（欄外書 上ニ「○」ト記ス）

四月十三日出勤○上野景範病死

四月十四日出勤

四月十五日日曜○上野葬送白銀瑞松寺ニ行○

銀行集會所招キより向島八百松ニ會ス

四月十六日出勤○夜三田金原朝山来ル晩食

四月十七日出勤朝北岡来ル撫村筆みちのく記

二巻埋忠短刀被贈○夜神鞭来ル横濱ニ行キ

倉庫會社創立相談之模様内話しス

〇五年来安田ト清水ノ間ニ四十五銀行譲渡
後之決算ニ付不打合之所先日来調和今日安
田善次郎ヨリ金七百圓并ニ清水借入金証書
戻し来り候更取置

四月十八日出勤〇女子学館英國夫人等午後初
ヲ来賓招接ニ付出場ス〇夜新島襄来京

四月十九日出勤

MARUZEN

四月二十日出勤星岡茶寮ニ松方大臣吉井友實
郷純造岩謹一郎相招ク寛畝玉章（画工）中
川亀三郎并ニ女子二名碁手相招キ餘興ヲ備
フ

四月廿一日出勤鐵道會社奈良原ヨリ紅葉館ニ
被招

四月廿二日日曜朝来客数人○永阪杉田両家家
内ヲ招キデンガクにて晝飯出スタ橋本来ル
今朝新島ヲ診察セスニ診上甚不宜且井上馨
氏方ヨリ急使来リタレハ只々見舞タルニ新

MARUZEN III

島同所ニテフサギ有リタルト云フ難波江書面遣し去ル栗津方止宿之新島ヲ訪フ少々閑ケタル様子ナリ

四月廿三日出勤○朝山尾庸三ヲ訪ヒ日本銀行建築之企ヲ内話ノ上臨時建築局ノ内幕ヲ叩ク粗要領ヲ得タリ着手ニ際スレハ尚助言ヲ乞フト約シ去ル新島ヲ訪フ後一時ヘルケ氏并ニ難波来ル筈ト云フ夜ニ入リ又同氏ヲ訪フタ刻ヨリ一段快方ト云フ不逢シテ去ル

○本日松方大臣郷次官松尾臣善銀行ニ来ル
海外為替地金銀買入ノコトヲ日本銀行ニ托
セントノ内議ナリ

四月廿四日出勤高崎正風ヨリ園會按内アリ見
舞夜鈴木大亮菅原龍吉来ル囲碁(碁)翌二時ニ達
ス

四月廿五日出勤夜河瀬神鞭来ル夜十二時帰ル

四月廿六日出勤夜和達子嘉鈴木大亮松倉ヲ招
キ洋食ス

四月廿七日出勤

四月廿八日出勤夕六時園田孝吉送別トメ（マシテ）相招ク来客末松澄（謙カ）澄高橋新吉高橋是清吉田三郎松本莊一郎毛利重輔也○市原盛宏仙ヨリ上ル

四月廿九日日曜終日雨天朝勝先生ヲ訪ヒ午後新島病床ヲ尋子市原ト東花学校ノコトヲ談スタ石原盡貫来ル

四月三十日出勤午後大隈外務大臣ノ園遊會招

キニヨリ早稲田村ニ到ル○昨日樞密院官制
勅令出ル
此令ハ伊藤総理大臣ノ隠避所ナリ人ニより
官ヲ設クルモノ之レナリ近来伊藤大臣ノ擧
動ニ就キ朝野囂々スルモノアリ之レ先般保
安條例ノ発布アリシ所以ナリ余ヲ以テ現時
ノ世況ヲ察スルニ不平ノ徒アルモ決而恐ル
ヽニ足ラズ一國ノ政治ヲ握ルモノ之レラ如
キヲ恐ルヽニ足ランヤ若恐ルヽアラバ自ラ
悔ユル所アルヘシ若悔ユル所無クンハ（全）

ト言サル可カラズ（ラ脱カ）樞密院必ラズ無用物ニ
アラサルヘシ然レトモ之レヲ利用センニハ
其人ナカル可ラズ（カ脱カ）先年元老院創設ノ精神今
日養老院ト変タルト同一轍ヲ踏ナカランヲ
望ム

五月一日出勤

五月二日出勤○鹿鳴館ニ高橋新吉ヨリ被招園
田孝吉送別會也

五月三日出勤午後飛鳥山澁澤別莊ニ被招陸奥宗光米國行ニ付送別會也

五月四日出勤

五月五日不勤在宅銀行新築ノ圖ヲ作也○大蔵省ヨリ呼来ルニ付出頭ス鄉田ク制貨地金買入ノコトヲ日本銀行ニ托シ大蔵省ニテ廢止ノ相談也議不合尚再按返答トメ帰ル

五月六日日曜朝大井江出頭夕刻帰ル本日書幅類風入レニ付北岡文兵衛三野村利助古筆了

MARUZEN

悦荒木寛敏ヲ誘ヘ拜見サセル

五月七日出勤お縫鎌倉行之支度ス両天ニ付延引○夜吉田次郎神鞭来ル

五月八日出勤午後品川益田孝ノ宅ニ被招應擧堂落成ノ陶宴ナリ来客松方大臣御純造一川研三三野村北岡也應擧堂ハ名古屋在ノ寺ノ書院ト見ユ三間四面ノ座敷貳間也上ノ間ハ松竹梅ノ墨画四壁又次ノ間ハ丁ノ画ナリ何レも見事之出来ナリ下去只好事家ノ頑物ニ

て常用ノ書院ニ用ユヘキニアラズ

五月九日出勤快晴お縫両児ヲ携鎌倉ニ出立ス

五月十日夕刻雨如梅雨岡田鎌倉ニ送リタル由

ニテ今日帰ル無事安着之後両児共頗ル機嫌

ヨク遊ビ居ル模様ナリ

朝松方大臣ヲ訪ヒ制貨取扱ノ事ニ付意見ヲ

陳ブ

五月十一日
五月十二日
五月十三日
五月十四日
五月十五日
出勤

五月十六日出勤朝松方大臣ニ謁シ四五日間鎌倉出掛ノコトヲ内陳ス

○本年ハ金利ハ歩位マテ引上ルモ流通ヲ引締ル樣致スヘキト内詰アリ昨年マテハ流通ヲ大ニセヨト又本年ハ少ニセヨト思想ノ自

由変化一ツモ意見ナキモノヽ如シ

五月十七日朝八時出立鎌倉ニ遊ビ海濱院ニ一時頃着ス妻児莊(壮)連

五月廿一日本日迄海濱院滞留午後四時村田一郎同行帰京ス

五月廿二日横濱ワツソン氏ヨリ被招競馬見物ス午飯ノ馳走也来賓松方大隈西大臣等内外人三十餘名也午後四時ノ汽車ニテ帰京

MARUZEN III

五月廿三日出勤

五月廿四日出勤午後瑞鳳會ニ付敷津(洲カ)川崎屋ニ
會ス會員三十名帰途管原龍吉宅ニ立よル

五月廿五日出勤午後田口卯吉ヨリ被招上野精
養軒ニ晩食ス来會十三名西毛鐵道會社関係
ノ人々十リ

五月廿六日出勤

五月廿七日日曜朝寺島伯ヲ訪ヒ又大井邸江参
上ス明日御下仙ハ暇乞ナリ

午後勝先生ヲ訪フ

五月廿八日朝六時上野停車場上ニ出大井従五位
公御出立ヲ送ル出勤
本日お縫一同鎌倉より帰京ノ筈ナルニ昨夜
来ノ雨天道路あしき由にて出立見合ノ書状
夜ニ入り来ル
五月廿九日出勤○妻児鎌倉ヨリ帰家ス
五月三十日出勤朝松方大臣ニ立より銀行建築
着手之大要ヲ具申ス意見賛成ヲ得タリ○大
槻修ニ横尾東作石川未七人等来ル譲室公御
出ヤリ直知君華族学校ニ入学不同意ヤリ

五月三十一日出勤午後吉田清成氏ニ被招角力見物ス

六月一日出勤

六月二日朝伊藤大臣ヲ殿山ニ訪フ大井ニ参却ス（御脱カ）

六月三日伊賀陽太郎ヲ訪フ悔ヲ述ブ同氏老父病死報アリタル故也（ル脱カ）

六月四日出勤午後中井新右エ門別荘深川ニ被

招晩食ス

六月五日出勤財政按起草

六月八日出勤午後松方大臣官舎ニ會ス黒田伊藤山縣大隈諸大臣来ル原六郎三野村利助陪席ス日本銀行ト正金銀行ト從来ノ業務上ノ事ヲ被尋○大井從五殿仙臺ヨリ被帰

六月九日出勤午後大井江罷出ル

MARUZEN

六月十日出勤

六月十一日仝大井御部屋滞仙ニなりたるニ付

其子細ヲ仙臺松倉江通信ス

六月十二日出勤朝大蔵大臣ニ謁ス過日正金銀

行と期約取結ノ内談故早々取極ムヘシトの

事也大隈大臣ニ會ス内詰〈存替其他の事也

〉近日神戸に出張の由ニ付支店事務南取吳

候樣内申ス

六月十三日

MARUZEN III

六月十四日

六月十五日 出勤 財政整理鄙見書脱稿精書来ル

六月十六日 日曜

朝 財政整理鄙見ヲ勝先生一覧ニ備ル 且黒田総理大臣ニ内見ニ入レンコトヲ内願ス 先生兼諾セラレタリ

六月十七日 出勤

六月十八日 出勤 夕女学館副長マツユー夫人ヨ

り被招お縫同行参會ス

六月十九日出勤無記事寺島顧問官ヨリ被招ル

貿易統計調書ヲ閲ス

六月廿日出勤

六月廿一日出勤

六月廿二日出勤新島夫婦相招キ晝餐ヲ供ス

六月廿三日出勤

六月廿四日日曜朝勝先生ニ謁ス先生曰先日之

書もの（財政整理草見）黒田総理ニ渡セリ

MARUZEN III

曰氏落手スト其顛末之大要聞クヲ望メトモ
他客座ニ在リ不得其義唯々拝謝スト申述置
ヲキ帰宅ス○大井邸ヨリ御招キニ付罷出タ
リ仙臺ヨリ御帰朝ノ祝宴ナリ重公夫婦ノ中
次第密着ノ様ナリ

六月廿五日出勤

六月廿六日出勤

六月廿七日仝　午後奈良原繁今日洋行ニ付寄
送別橋場地岡ノ別荘ニ招く招待人鈴木大亮

MARUZEN III